

氏名	延本悦子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第5453号
学位授与の日付	平成29年3月24日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Comparison of Kidney Function between Gestational Hypertension and Preeclampsia (妊娠高血圧と妊娠高血圧腎症の腎機能の関係性について)
論文審査委員	教授 和田 淳 教授 杉山 斉 准教授 中村一文

学位論文内容の要旨

妊娠高血圧（GH）と妊娠高血圧腎症（PE）は妊娠高血圧症候群（PIH）において蛋白尿の有無により分類されている。またPEにおいて様々な予測因子の検討が行われており腎機能検査による評価も検討されている。今回GHとPEにおける腎機能検査と胎児発育について2008年より2015年までに当院で分娩を行ったGH61例、PE60例について後方視的に検討した。今回の検討において腎機能検査はGH、PEの間には明らかな有意差はなくGHにおいては蛋白尿を伴わないが、腎機能検査は蛋白尿を伴うPEと同様であった。腎機能検査と胎児発育について検討すると、PEの児体重percentile は相関関係を認めしたが、GHでは認められなかった。しかしながらGHのうち腎機能検査が異常値でかつ胎児発育が不良の症例はそのほとんどが胎盤が小さく、PEと同様の経過であったことから、GHの一部はPEに近い病態あるいはごく初期のPEを示していると考えられ、腎機能検査を行うことはGHのうち周産期予後に影響するPEに類似する症例の鑑別に有用であると考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は妊娠高血圧腎症(PE)と妊娠高血圧(GH)における腎機能検査と胎児発育について後方観的に検討を行っている。蛋白尿が陽性で定義されているPEと、蛋白尿が陰性で定義されるGHの間で、腎機能検査に明らかな有意差はなかった。PEにおいては児体重パーセントイルと胎児発育に相関関係があったが、GHでは認められなかった。一方GHでも腎機能検査が異常値を呈し、胎児発育不良の症例があり、そのほとんどの胎盤が小さくPEと同様の経過を示した。従って、本研究においてはGHにおいて腎機能検査を施行することが、PEとほぼ同様な周産期予後を呈する症例の鑑別に有用であることを示し、これは妊娠高血圧の管理上、重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。